

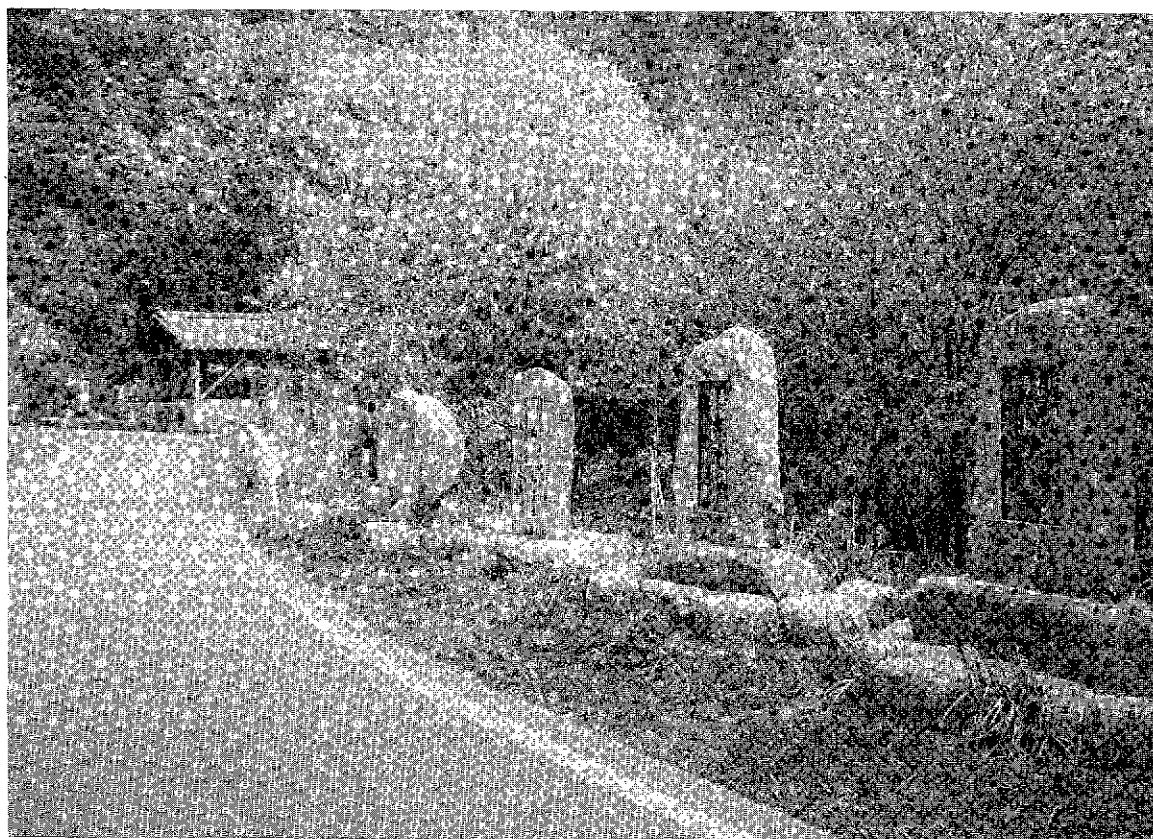
新潟県

平成5年

公民館月報

6月
第484号

特集 環境問題と公民館



雷や

四方の樹海の

子雷

(佐藤念腹)

林道五頭山麓線

くやまびこ通り

森林欲の森、文学碑の道

としての「山びこ通り」は、

これからが散策の好季節。

滴る緑に心洗われる思いが

する。

(写真・資料提供、北蒲笹神

村公民館)

第二回理事会開催

優良公民館表彰は二館
永年勤続者表彰は十四氏



高田公民館



上条公民館

柏崎市高田公民館 (表1)

沿革
昭和30年4月1日 開館
昭和58年 集会棟、講堂新築

施設設備の状況
集会棟 RC 2階建 404.0㎡
会議室 65.0㎡
会議室 41.0㎡
調理実習室 41.0㎡
図書室 32.0㎡
事務室 16.0㎡

体育館(講堂) RC平屋建 360.0㎡

職員数
公民館長 1人(専任 非常勤)
地区指導員 1人(専任 非常勤)
推進員 4人(非常勤)

柏崎市上条公民館

沿革
昭和32年4月1日 開館
昭和58年 集会棟、講堂新築

施設設備の状況
集会棟 RC 2階建 368.0㎡
会議室 65.0㎡
会議室 41.0㎡
調理実習室 41.0㎡
図書室 27.0㎡
事務室 16.0㎡

体育館(講堂) RC平屋建 494.0㎡

職員数
公民館長 1人(専任 非常勤)
地区指導員 1人(専任 非常勤)
推進員 4人(非常勤)

六月一日(火)、新潟市中央公民館会議室において第二回理事会が開催された。

議題は、県公民館連合会表彰の選考及び全国公民館振興大会表彰者の推薦にあった。

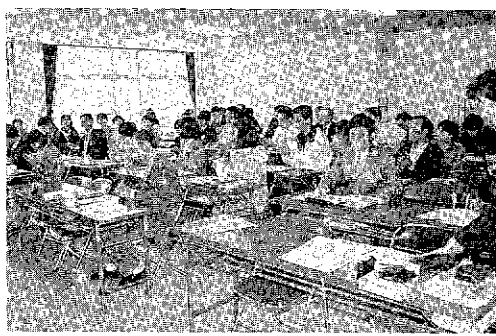
県公連表彰については、推薦のあった公民館二館、永年勤続者十四氏について、選考の結果すべて適格と認められ表彰することに決定した。

優良公民館表彰を受賞することになったのは柏崎市高田公民館・柏崎市上条公民館であった。(表1参照)二公民館とも地区館として、「ふるさと講座」公民館だよりの発行」などの地域に根ざした活動の成果が評価されたものである。

永年勤続者表彰については、表2に掲載の諸氏である。心からお祝いを申し上げる。なお、表彰は来る七月十五日に開催される第四十四回新潟県公民館大会(頸城村「希望館」)の開会式において表彰されることになっている。

〈表2〉平成5年度
新潟県公民館連合会永年勤続者表彰候補

氏名	年齢	所属
関根 喜八郎	65	白根市茨曾根地区
川口 禮子	64	〃 白根地区
関根 雅子	55	〃 白根地区
吉田 康偉	54	〃 中央公民館
田辺 敬吾	75	豊栄市中央公民館
遠藤 武男	55	〃
計 良勤	66	佐渡郡新穂村
神林 ヒロ	63	西蒲原郡味方村
関重 野正	50	〃
雨宮 文子	78	中頸城郡板倉町
山口 和子	63	新発田市公民館
山 真島	64	十日町市公民館
有 坂 耕 紘	77	見附市今町公民館
	58	上越市立公民館



県生涯学習推進センター主催
生涯学習指導者研修会開催

去る五月十九日から二泊三日にわたり、県生涯学習推進センター主催の「生涯学習指導者研修会」が、県立青少年研修センターを会場に開催された。

市町村の社会教育・公民館等生涯学習推進に関する職員約100名(経験一年未満)を対象に開催されたもので、十一月に開催される後期研修とセットになっているものである。参加者の総勢は五十名で、公民館の職員も十二名参加していた。

大部分の参加者が新任早々の人たちで、生涯学習や社会教育に関する理解については「白紙の状態に近く、「何が問題点や課題か?」については「何も分からない」ことが問題であったということを担当者から聞いた。それが例年のとおりである。後期に再度集まってくる際には、一回り大きくなって、たくさん課題を抱えてくるのが頼もしく感じられた。

第一回編集専門委員会開催

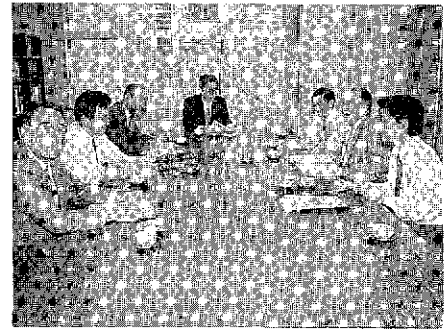
五月二十五日(火)午後一時 半から新潟市中央公民館会議室において、平成五年度第一回編集専門委員会が開催された。

会議は、前回(前年度二月)話し合われた今年度の編集方針の確認、つまり、特集として「くらしの中の課題を追って」をシリーズとして取り組むこと、ついで、集落公民館の実践や問題点を継続して取り上げること

ある。また、全体をとおして紙面充実のため、情報提供を密接にすることが話し合われた。

なお、編集委員のうち、人事異動により次の二氏が残任期間を継承することになった

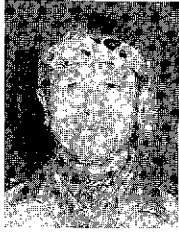
平丸 誠氏
上越市立公民館副参事
中山 隆 夫氏
加茂市公民館長



視点

今年の連休は、野山歩きを楽しんだ。前半は歩くスキーで雪の上を徘徊し、後半は軽登山をした。眼前には、たつぷりと美しい自然が広がっていた。

しかしその雪も、大陸からの季節風に乗ってきた汚染空気の影響が多く、喜んでばかり



の影響とも思われた。今、水の惑星地球はとも病んでいる。車や工場の排気ガスが大気を汚染し、森林破壊とコンクリート護岸等により、河川は水の浄化力を失い、土に還ら

環境問題は誰の問題

諸橋 潔

はいられない。山は微妙に異なる数種の緑色がモザイク模様を織りなす衣装で美しく粧しこみ、多くの人間を歓迎してくれた。しかし、一部の山では、大半の樹木が死にかけており、酸性霧が、人間は産業の発展

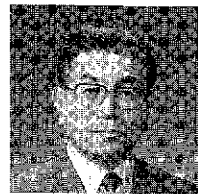
ぬ化学製品の氾濫で海洋にまで汚染が広がりが山となつてい。いづからこんな風になつてしまったのか。産業革命以降近代文明は生活を便利にしてきたが、人間は産業の発展

なが賢い市民となつて、ブームに踊らされての無駄な消費はしない。リサイクルも必要だが、まず使わない工夫が大切。身近な自然から見つめよう。人類は単なる生物の一種類として、多様な生態系の中でしか生き続けられない。今や、環境問題を学者や政治家や行政にのみ任しておくのではなく、市民の一人一人が強い自覚を持って行動しなくてはと考える。この辺にも公民館の果たす役割がある。

(新潟市自然観察指導員)

子ども達と地域へ

反町 幸男



学校週五日制の実施に対応して、育成指導員の配置、ブレイリー

ダリの育成、ボランティアの発掘と活用及び地域の特色ある事業の展開等がされている中で、子ども達は楽しく意義ある時を過ごしている現状である。

子ども達の活動の場として公民館等社会教育施設の使用が成人になつて、再び施設の利用が期待できる面もあり施設での事業の展開を大いに推進していくことが必要である。

ひるば

しかし、公民館等は成人を中心として考えられている施設であるから、子ども達の利用のために施設設備の見直しや充実することが今後の問題となる。また、事業の企画も月一回というところでやむを得ない面もあるが、単発でなく継続的に、子ども達の企画による事業の展開も試みたいものである。さらに公民館等の施設に集めて行い活動だけでよいのであ

うか。自然観察・ウォークラリーレク活動等も行われているが拠点となっているのは公民館等である。今後週休が月二回、全土曜日休日となつていく時、公民館等が行う同一会場の集学習や活動では対応が難しいのではないかと思われる。

そこで活動の場を自治会館や町内の集合場、公園や広場等へと拡大して集合型から分散の出前型の活動を推進していくことが必要となつてくる。そこへ地域のボランティアを活用し活動を展開して、保護者や地域の人々が参加して子ども達と共にすごすことが本来の姿ではないか。この地域活動へぜひ施設職員や教員もボランティアとして参加して、地域の一員としての役割を果たしてほしいと願っているものである。

家庭や地域へ子ども達を返し親子や近隣との触れ合い等を通して、地域の一員として活動できるように、地域の教育力の向上のために家庭、地域、学校の三者が連携していくことがますます重要となつていく。(新潟市曾野木地区公運審委員)

の課題を追って と公民館

暮らしの中の課題や地域の課題を発見し、その解決の方途を探るのが公民館の大事な役割である以上、環境問題は基本的な命題としてさけて通れない公民館の活動である。

しかも、それらの様々な環境問題は、単に家庭や地域の問題であるばかりでなく、地球規模の問題としてもその対応を求められている。

このような問題として存在する環境問題について、公民館はどのように取り組まなければならないのであろうか。県内外の公民館が先進的に取り組んでいる実践事例を紹介し問題点を取り出してみたい。

一、県内実践事例

新潟市の鳥屋野地区公民館では、地域内にある鳥屋野潟の水質汚染や自然破壊の問題がクローズアップし始めた昭和五十年代から、毎年実施している自然セミナーのひとつとして「鳥屋野潟の自然」をテーマとした学習内容を組み込んできた。ある年は「鳥屋野潟の植物」であったり、ある年は「鳥屋野潟の水汚染」であったり、またある年は「自然と人のかかわり」というテーマで展開してきた。午

前の部の学習には、暮らしの課題ということで女性の参加が多いが、夜の部の学習には会社員等男性の参加者も多く、自然保護に関心を向ける市民の多いことが知られる。

また、市政懇談会から発足した「とやの婦人協議会」は地域の課題を見つめようと活動しており、鳥屋野潟の生活排水調査が地道に続けられた。月毎に年毎に汚染度の高まるのを知り、危機を覚えることになった。その結果、会員各自の台所の雑排水の処理に関心が向けられ、地域の課題として雑排水に注意や関心を促すようになった。一方鳥屋野公民館では、平成四年度には表1にみるような「環境問題講座」として独立した講座を開

設し、市民の環境問題への関心を高めている。(表1参照)

三条市の嵐南地区公民館では「婦人専科講座」の一駒として「危険な合成洗剤」なるテーマで、石けんと合成洗剤との比較研究や石けんづくりに取り組んでいる。

この二例以外にも、環境問題として真つ正面からの取り組みではないにしても、例えば、海岸や公園などの「グリーン作戦」と称する子ども会の清掃奉仕活動を展開したり、婦人会による「ごみ収集活動」、さらには高齢者から子供にいたる地域ぐるみの「花いっぱい運動」とか「蛍の棲める里づくり」などといった活動は県内各地の公民館で取り上げているところであり、これらのすべてが自然を大切に

快適な生活環境づくりの活動であり、環境問題への取り組みそのものである。

二、県外実践事例

県外の事例では、愛媛県宇和島市の主婦たちの取り組み(月刊公民館平成三年六月号から引用)を取り上げてみよう。

ごみ問題を暮らしの課題として取り上げた主婦たちは、先進地の研修視察の結果、行政・地域・住民の三位一体となって取り組むことの大切さを学び、台所からゴミ問題を考えようと、市内の主婦たちが「本気」で立ち上がったのであった。それまで行政サイドで消極的に進められてきた「ごみ問題」を見直し警鐘を鳴らすことに役立った。宇和島市連合婦人会で

表1 (平成4年度) 環境問題講座

テーマ 鳥屋野潟・いま・未来		
月日	内容	講師・助言者
11月20日(金)	植物からみた環境問題	元高等学校教諭 尾崎富衛
11月27日(金)	白鳥と人間と自然環境	白鳥研究家 本田清
12月4日(金)	～トークショー～ 自然豊かな鳥屋野潟にするために	司会 堀川大輔 鳥屋野潟研究会 パネラー 尾崎富衛 本田清
1月18日(月)	講演会 テーマ 「鳥屋野潟・いま・未来」 講師 元新潟大学学長 長崎明	
2月14日(日)	親子石けんづくり教室 廃油利用の石けんづくりと環境問題を親子で考える	講師 総合生協理事 谷田英子
会場 鳥屋野地区公民館		
学習時間 午前10:00～12:00		
対象・定員 一般人 40人		

は、市のごみ収集の現状学習、環境センターの見学、ごみ収集業者との懇談会、ごみ問題についての他の女性団体への啓発と宇和島近辺の他市町村婦人会との情報交換等を実施してきた。

ここでの特色と言えるのは、(1) ただ座して学ぶだけの環境問題学習ではなく、女性の立場からの市の施策への具体的な提言をしているところであるという。ちなみに、提言のひとつを紹介すると、分別収集を徹底するために市内統一のごみ袋を決めること。中身が見える半透明のポリ袋で、例えば可燃物はみかんのオレンジ色に、不燃物は宇和海のブルーに統一。袋の表には「水切りを」等とごみを出す時の注意書きをするなどである。

(2) こうして、身近な生活課題に取り組む過程で、他の課題へも目が移り掘り起こされていったという。たとえば、青少年の健全育成、人権問題、地域福祉、地場産業の振興、学校教育偏重、明るい選挙の推進、生活改善運動等、これらの課題解決は、地域の環境美化であり、人々の心の美化であり、豊かな文化が醸成されることである、と指摘している。

もう一つの事例を取り上げてみよう。北海道登別市教育委員

シリーズ 暮らし 環境問題

会の「環境保護実践講座」である。(出典は前記と同様)

「自然を愛と力を合わせて緑と空気が太陽いっぱいあるきれいなまちをつくりましょう」という市民憲章のもと、地域環境の実態を学びながら自然を大切にすることを育て、快適な生活環境づくりを市民自らが実践していくことを目的に掲げている。

対象は、小学生から成人までを網羅し、講義・実習・観察・体験実践活動を展開することである。例えば、「自然を愛しきれいな町へ」「くらしとごみ」「水と私たち」「きれいな海はみんなの力で」「環境にやさしい暮らしの工夫」というようなテーマを

挙げて、年八回の事業にこれを配分し、清掃工場の見学、森の役割や森林浴の効用などを学ぶための親子森林教室、ゴムボートで川下りをしながら水質検査をしたり、川の汚染状況を確かめる親子せせらぎ教室なども実施する。

これらの活動には、連合町内会、老人クラブ、商店会、営林署、清掃工場、学校薬剤師会、漁協、市民サークルなどの諸団体が協力しているという。そして、すでに実施に移されたところでは身近な自然環境を見なおすきっかけと周囲の生活環境に目が開き、今日の豊かな生活の裏側で何が起きているのかを見つめ直して、毎日の暮らしが環境問題と直結していることを知ったと報じられている。

三、問題と課題

再び鳥屋野地区公民館の実践に戻る。

新潟市の場合には行政でも環境問題を重要視し、対応に乗り出している。これに呼応して住民運動も活発である。鳥屋野地区公民館のエリア内だけでも、例えば「鳥屋野潟研究会」という学問的立場からのアプローチ、「コープとやの」は消費者の立場、「市民生協女池」は生活協同組合の立場からのアプローチに



よる市民運動は積極的に活動している。しかし、公民館の学習活動参加グループは必ずしもこの住民運動の輪の中に入りこむとはしないもののようにである。これは、あなたがち政治運動につながるからということだけではないようである。

環境問題講座の直接担当者であり、前出の「鳥屋野婦人協議会」とのバイブ役でもある梶瑠子社会教育主宰によれば、「環境問題の学習を深めることは、生活環境の改善に目が開き、やがて市民運動として広がることを想定しがちであるが、実際はそれとは逆で、責任の所在を個人に求め個人の家庭や個々の生活の中に戻る方が多いのだという。」と、環境問題という

地域の市民運動のリーダーや、特定の人が一生涯懸命に旗を振り、一般の人たちはその後についていくものと思いがちのところの問題があると思う。実はそうではなく、日常生活の中で五分でも十分でも家庭や台所、仕事場などの身近なところでできることである。つまり、環境問題は個人から始まり、やがて連帯し、運動となって広がることも大切であるが、それ以上に大切なのは常に個人に戻って考えることのようにである。

これらの実践事例から次のことが指摘できよう。

- (1) 環境問題は、足元から始まって、その先、さらにその先と探っていくれば世界全体にたどりつくことになり地球規模の環境問題が見えてくる。そこで再び、自分はどうしなければならぬのか、地域はどうする必要があるのかを考え行動することが大切になる。
- (2) 先にもふれているように、ひとつの身近な生活課題への取り組みの過程で、他の課題へも目が移り掘り起こされていくというプロセスを大切にしたいものである。生活課題の解決は、地域環境の美化であり、人々の心の美化であり、豊かな文化を醸成することである。それはまた、地域づくりの活動に他なら

四、おわりに

ないということである。

このような公民館の環境問題への取り組みについて、先に事例を紹介した宇和島市社会教育課の竹田博英指導課長は「環境問題の古くて新しい課題、それはごみ問題」と言い、ややもすると、行政側から住民に対して、一方的に理解や協力を求める傾向から、行政・地域・住民の三位一体の取り組みに意味があるのだとし、公民館活性化への思いを次のように記している。「現在、公民館を根幹で支えているのは女性である。しかし、就業女性の増加と共に公民館活動も困難な状況が生まれてきた。そのうえ成人男子の社会参加は低下し、公民館に集う人材も減少しつつある。このような状況下で公民館はいかなる手法でその存在をアピールし、存続し続けることができるのか、それは古くて新しい課題、すなわち地域の生活環境を深く見詰め、快適な生活空間を創出していくことを重要な課題とすることで、再び「公民館」が浮上してくるであろう」と。

この指摘は、宇和島市の公民館ばかりではないように思うのだが、いかがであろうか。

県生涯学習審議会の答申

新潟県生涯学習推進プラン

新潟県並びに県教育委員会では、先に県生涯学習審議会に対し、「新潟県生涯学習推進プラン」の策定について諮問していたが、去る三月二十七日に答申を得た。

それによると、プラン策定の基本的考え方として、①21世紀初頭に向けて、本県の目指す生涯学習社会のあり方と推進の基本的な方向の提示。②知事部局、教育委員会双方の所管にわたる幅広い推進方策の提示。③市町村や社会教育関係団体等が取り組むための指針の提示と県民への期待、の四章からなっている。

◆総論の第一章「生涯学習社会の展望」では、生涯学習の背景や意義を明らかにし、本県の目指す生涯学習社会像を明確にした、としている。

第二章「生涯学習社会へのアプローチ」では、新潟県にふさわしい生涯学習社会を実現するために、次の4つの視点からのアプローチを提示している。

1、特色あるまちづくりへの対応

- ①人々の斬新な発想による地域課題への取り組みが必要。
②本県固有の学習資源について学び、次代に継承し、郷土愛や連帯感を涵養することが必要。
③学習による地域の再発見と地域社会の活性化や特色あるまちづくりへの発展を期待。

2、長寿社会への対応

- ①長寿社会への対応を、すべての世代の課題として自覚し理解することが必要。
②高齢者の経験や知識・技能を生かし、社会参加と社会貢献を促進することが必要。
③家庭、学校、地域社会、企業、行政が一体となった学習活動の推進を期待。

3、ゆとり社会への対応

- ①社会の成熟化に対して、物の豊かさから心の豊かさを求める人々への対応が必要。
②生涯学習の広がりを一層大きくするとともに高度で専門的な学習活動を推進し、幅と深みのある生涯学習社会を実現することが必要。
③県民が等しく生活に生きがいと潤いをもてるゆとり社会の実現を期待。

- 4、国際化・情報化への対応
①環日本海時代における人、物、情報の交流の拡大に対して、県民一人一人が国際社会の一員としての国際性を身につけていくことが必要。
②地域における国際化を目指した学習活動や交流活動の活発な展開を期待。
③高度情報化社会の進展に対して、必要な情報を選択し、活用する能力を育成するため

第2節 多様な学習活動の推進

Table with 3 columns: No., 現状と課題, 施策の基本方針. It lists 8 categories of learning activities such as '新潟ふるさと学習', '長寿社会への対応', 'スポーツ活動', etc., and their corresponding strategies.

◆各論「第三章活力ある社会を築く生涯学習の総合推進」では第1節 学習の場の充実と振興 第2節 多様な学習活動の推進 第3節 生涯学習推進体制整備 について、それぞれ「現状と課題」並びに「施策の基本方向」が示されている。(第2節を左表に示した)第3節の「生涯学習施設の整備・充実」では、(1)施設の整備・充実、(2)施設間の連携・協力を施策の基本方向としている。

県立文書館講座のご案内

もう受け付けは始まっています!

講演1「公文書の保存と利用について」

講演2「市町村行政文書の保存と地域文書館の役割」

日時 6月21日13時20分〜17時

定員 先着186名

◆県史講座

会場 糸魚川信用組合本店

演題 「縄文姿勢方針―翡翠ネットワークの支配」

日時 8月8日14時〜16時

定員 先着200名、入場無料

問い合わせ どの講座の問い合わせても県立文書館へ

☎025-284-6011



◆古文書入門講座

古文書に初めて接する方を中心に、読み方・扱い方の初歩的な知識と技能の習得。

会場 加治川村中央公民館

日程 平成6年2月2日、9日、16日、23日

時間 各回とも13時30〜15時30分

受付 5月12日から先着50名

◆古文書解説講座

古文書をさらに深く読みたい方へ。読み方や歴史的背景や地域史との関わりを学ぶ。

前期講座

会場 文書館ホール

日程 6月10日24日7月1日8日22日29日8月5日

後期講座

会場 文書館ホール

日程 12月2日9日1月6日13日27日2月3日

時間 各回13時30分〜15時30分

受付 5月12日受付開始、先着70名

◆公文書等利用講座

日々の仕事から生み出される行政文書や資料は「時代の証明」として、後世多くの人々に利用され。

会場 県立文書館ホール

まちからあきらから

市町村の隠れた名所
紹介のコーナーです。



【笹神村の巻】

昭和61年4月、全国五万三千余の候補地の中から「全国森林浴の森」百選に入選。この県民の森の五軒にわたり「林道五頭山麓線」が開通し、森林浴の道となつている。

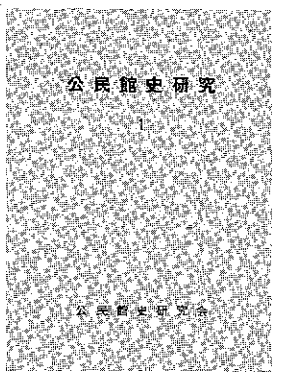
いま、この林道にもうひとつの新しい名称「山びこ通り」が誕生した。この山びこ通りの路傍を、句碑建立の場として、松尾芭蕉の「奥の細道」を模倣した新しい名勝の地として脚光を浴びている。

現在、句碑・歌碑・川柳碑が

公民館史研究

公民館史研究会刊

研究誌紹介



公民館史研究会(代表横山安)から「公民館史研究・一」が刊行されました。内容には「新潟県における初期公民館の地域定着過程に関する研究」(山村達夫・上田幸夫)「寺中構想と下村湖人の社会教育」(植村孝行)「公民館のおこり―寺中作雄氏に聞く―」ほか。B5版74頁、販売価格1千円。なお、公民館史研究会は、公民館の歩みに

学び、その発展と新しい社会教育の創造を図ろうと、一昨年九月発行した会です。☆主な事業は、全国研究会、定例研究会の開催、研究紀要、会報の発行。☆入会申し込み(事務局 東京都福生市福生二四一六・三四一奥田泰弘あて)、公民館はもとより、広く社会教育の分野で活躍している方々の参加が期待されています。

すでに百八十基建立され、探訪客に詩情を与えている。
第3回シニア美術展
新潟県長寿社会振興財団では、第3回シニア美術展の作品募集をする。振って参加をおすすめする。
募集期間 7月20日〜8月20日
募集作品 洋画(油絵、水彩、版画、バステルなど)、日本画(水墨画を含む)、書、写真、彫刻、彫塑
応募資格 59歳以上のアマチュア
テーマ 自由
詳細問い合わせは、県長寿社会振興財団 ☎025-284-5114

あとがき

◆六面の「実践記録」は休みました。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 細川正博
編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部130円 年共・年極1,560円】